

文書館シンポジウム お宝史料との出会い方 ～文書館収蔵史料の魅力と活用～

開催日 令和8年3月27日(金)

会場 群馬県生涯学習センター 多目的ホール (前橋市文京町2丁目20-22)

プログラム 13:00~16:30 (12:30開場)

〈基調講演〉

「中世武士研究と史料

—美濃源氏・新田氏・桐生佐野氏との出会いから—

群馬県立文書館 古文書係長 須藤聰

参加費無料

事前申込制

先着
150名

申込み方法

〈メール〉

① 氏名(ふりがな)、② 住所、③ 電話番号を明記してお送りください。

E-mail : monjyo@pref.gunma.lg.jp

※数日中に決定メールを返信します。
届かない場合は御連絡ください。

〈WEB〉

二次元コードから
申込フォームに
御入力ください。



〈電話：文書館〉

TEL : 027-221-2346

※受付時間は、午前9時～午後5時

〈申込期限〉 3月24日(火)

図：(上) 狩野清川院養信等(模)「平治物語絵巻 信西ノ巻(模本)」(部分)
(下) 狩野栄信・狩野養信・養福(模)「平治物語絵巻(三条殿絵巻)」(模本) (部分)
(上) (下) ともに東京国立博物館所蔵 Image : TMI Image Archives

文書館シンポジウム 開催の趣旨

群馬県立文書館では、歴史的価値のある古文書、公文書を収集・保存・活用しています。また「県民に貢献する施設」として一般県民向けの展示や古文書講座を開催しています。今回のシンポジウムでは収蔵資料をどのように活用し、後世に伝えていくのかを考えます。

基調講演

須藤 聰 <群馬県立文書館 補佐兼古文書係長>

史料を丹念に読み込んでいくと、新たな歴史の1ページが開かれることがあります。歴史研究の醍醐味、“史料との出会い”について、当館補佐兼古文書係長の須藤聰が、中世武士団の研究を事例にお話しします。

・最終学歴 群馬大学教育学部 専門(日本中世史・武士団)
・経歴 群馬県内の高等学校教諭を経て、令和元年度に文書館へ。
・主な著書・論文
『上野新田氏』(戎光祥出版、2011年、共著)、
『戦国人一上州の150傑一』(上毛新聞社、2021年、共著)など。

個別報告



「江戸宿より年始挨拶」(「山田松雄家文書」)

報告① 小嶋 主 <群馬県立文書館 主任>

1つの家に伝わった文書のまとまり(文書群)から史料をつぶさに見ていくと、一般的なイメージと異なる歴史の実像が浮かび上がることがあります。当館蔵「中島徳造家文書」を中心とした史料から、近世の藩の世界を覗いてみましょう。



「葬儀祭壇の写真」(「上原定一郎家旧蔵文書」)

報告② 阿部 潤 <群馬県立文書館 指導主事>

江戸時代から続く家に伝わった文書群には、人々の生活に関わる多様な史料が含まれます。中には、現代には途絶えた風習を記録した史料が見つかることがあります。家族の冠婚葬祭に関わる史料から、往時の習俗を追体験します。

パネルディスカッション

日本中世史・戦国史を専門とし、群馬県立女子大学にて「群馬学」の視点で地域史研究、地域貢献活動を行っている築瀬大輔教授をお迎えし、当館小池俊英館長とともに群馬の歴史・文化をつむぐ“史料”の魅力と活用について語り合います。

注意事項

会場は、群馬県生涯学習センター多目的ホールです。お間違えの無いようお越しください。

築瀬 大輔 <群馬県立女子大学 教授>

・1965年 群馬県伊勢崎市生まれ
・最終学歴 國學院大學大学院文学研究科博士課程後期修了 専門(日本中世史) 博士(歴史学)
・経歴 群馬県立板倉高等学校教諭、群馬県教育委員会文化財保護課、群馬県立歴史博物館学芸係長を経て、2018年より群馬県立女子大学に在職。
・主な著書・論文
『小田原北条氏と越後上杉氏』(吉川弘文館、2022年、単著)、
『関東平野の中世』(高志書院、2015年、単著)、
『上野の戦国地侍』(みやま文庫、2012年、単著)、
『中世の北関東と京都』(高志書院、2020年、共編著)、
『北関東の戦国時代』(高志書院、2015年、共編著)、
『戦国人一上州の150傑一』(上毛新聞社、2021年、共著)など。
・群馬県文化財保護審議会専門委員、
館林市史編さん専門委員、伊勢崎市史編さん専門委員、
群馬歴史資料継承ネットワーク(ぐんま史料ネット)代表。